

リビングリテラシー向上プログラム推進事業

【現状と課題】

- ◆低い耐震化率
耐震診断や耐震改修の敬遠による耐震化の低迷、適切な維持管理の欠如による雨漏りの発生や建物劣化の進行等、住まいと向き合う基礎知識が不足
- ◆停滞する自治会、町会活動
自治会・管理組合等への無関心による地域活動の停滞、騒音・ペット・ゴミ屋敷問題等居住マナーの欠落による住環境の悪化など、コミュニティ、共同で住生活を営む意識が不足
- ◆伸び悩む中古住宅流通
「中古住宅より新築住宅」「借家より持ち家」等の偏向した意識が中古住宅流通の障害となり空き家発生を助長させるなど、ライフスタイルに応じ住宅や住まい方を選択する能力が不足
- ◆求められる住教育の充実
学校の技術家庭科における「衣食住」の学習項目のうち、本県の地域特性を反映した適切な教材がない、教員の住教育経験が少ない、等の理由により、住生活に関する子どもたちの学習は積極的に実施されていない状況

「リビングリテラシー（※）」が未成熟
※住宅や住まい方に関する基礎的な知識や判断能力

【解決の方向性】

県民一人ひとりが、将来にわたり、より良い住環境で暮らしていこうとする意識改革、環境形成が必要

- ▶ より豊かな住生活を実現しようという県民の意識醸成
- ▶ 住生活の情報提供等による県民のリビングリテラシー向上
- ▶ 住生活全体を学習環境として子どもの考える力や生きる力を育成する学習プログラムの構築
- ▶ 教育委員会と県土整備部との連携による住教育の実施

住宅施策として住教育を支援



【事業内容】

～ 巣立つ前に身につける実践版の住教育 ～

(実施期間：平成29～30年度)

防災や安全、健康等の基礎的な知識を身につけることが必要な小学生や、親元から独立した後の住生活において自らの判断が必要となる中学・高校生を対象としてリビングリテラシーを向上させる取組みを実施し、次世代の住生活やまちづくりを担う子どもたちの判断能力や生きる力を育成。併せて、一般県民のリビングリテラシーを維持、向上させるため、住情報提供やワークショップ等の取組みを実施。



リビングリテラシー向上プログラム推進事業

取組1. 樹幹形成

～ 巣や止まり木を支える幹となり、リビングリテラシーを向上させるための体制を整備 ～



- ①教育庁等関係部局との学習内容協議
- ②大学等県内高等教育機関及び専門研究機関等による住教育検討委員会の設置

【H29事業】
リビングリテラシー向上に係る検討委員会の設置等検討体制の整備及び家庭科、総合的学習の時間等における住教育プログラムの検討
(4,044千円)

取組2. 巣立ちプログラム

～ 巣立ちに必要なリビングリテラシーを向上 ～



- ①住生活に関する平易な内容の技術・家庭科副読本「(仮称)青森県のいえとくらし」の作成
- ②技術・家庭科や総合的学習における前授業の実施(建築士等住生活関連分野の専門講師による学習機会の提供)

【H29事業】
技術・家庭科副読本「(仮称)青森県のいえとくらし」の編集(3,731千円)

取組3. 止まり木プログラム

～ 巣立ち後もリビングリテラシーを維持 ～

- ①青森県の住生活に必要な基礎知識を網羅した一般県民向けのリーフレット「(仮称)リビングリテラシー」の作成及び普及・啓発
- ②家族みんなで住生活の問題を解決し居住環境の向上を考える家族参加型のワークショップ「(仮称)親子で学ぶ住まいの教室」の開催

【H29事業】
一般県民等向けリーフレット「(仮称)リビングリテラシー」の作成(225千円)



【事業効果】

★青森県の未来を創る人財の育成

- ▶ 子どもたちが住生活の身近な課題を解決することで、思考力、洞察力を育み、地域の未来への展望や地元への愛着を増進

★豊かな住生活の実現

- ▶ 持ち家や新築住宅に偏らず、個々のライフスタイルに応じた多様な住生活を実現する知識や意識の醸成
- ▶ まちづくりの当事者意識形成、コミュニティ活動への参加拡大

★安全安心な住環境の形成

- ▶ 防災意識の向上による耐震改修の増大等防災・減災対策の促進
- ▶ 健康増進、省エネルギー推進に資する住宅等への関心拡大
- ▶ 既存住宅需要の喚起に伴う空き家増加の抑制

★中古住宅市場の活性化

- ▶ 住み替え需要の拡大に伴う中古住宅市場の活性化
- ▶ 住生活社会における賢い消費者の育成

